

海外日本語教育事情 アメリカの協定校から

ヒルマン小林恭子

はじめに

金沢大学の協定校の数は大学協定と学部、部局間協定を含むと50を超えた。また、文部科学省は留学生10万人計画の目標を達成すべく、様々な方針を提出するよう各国立大学に協力を要請している。このような状況の中、筆者は1年という任期付きで金沢大学と1991年以来協定校である米国バージニア州ウィリアム・アンド・メアリー大学から来日する機会を得た。今回この職務に就くにあたり最も大きな利益は両校の益々の関係強化が図れ、お互いが交換している学生たちがそれぞれの場所でどのように有意義に生活を送っているのか、問題点は何かなど、詳細に渡って視察、意見交換できるということであろう。

日本語を教え、送り出す側として気になるところはもちろん日本語教育がどのように行なわれ、米国に帰国するのかということである。今回は金沢大学留学生センターにおける日本語教育に第一線で関れるまたとない機会を得たわけである。毎日教える中で色々とカリキュラムの違いに驚くこともあった。また、金沢大学の教官・講師陣側にも受け入れている学生が母国でどのような日本語教育を受けてきたのかと素直に疑問を持っている様子がかがわれたので、今回はアメリカの日本語教育現場の一報告としてウィリアム・アンド・メアリー大学で行なわれている日本語プログラムの現状をまとめることにした。^{註1}

I. 概 要

1. 大学概要

ウィリアム・アンド・メアリー大学はアメリカ東部のバージニア州ウィリアムズバーグ市にある州立大学である。首都のワシントン DC から車で約2時間半南東に走ると、人口が3万人ほどの小さい町、ウィリアムズバーグに着く。今は小さい町だが、アメリカの歴史上大変重要な役割を果たした町で、最近の20年を見ても、サミットが開催されたり、天皇陛下を始め首都を表敬訪問する外国要人の観光先にもなっている。ウィリアム・アンド・メアリー大学はその名が示す通り、イギリスのウィリアム王とメアリー女王の許可により1693年にアメリ

カでハーバード大学に次ぐ2番目の大学として設立された。この大学で学んだ大統領は、トーマス・ジェファソンを始めとして何人かが挙げられる。

2. 学部と日本語科の概要

日本語科 (Japanese Language Section) のある現代言語文学部 (Department of Modern Languages and Literatures) はアメリカで最も古い現代言語文学部である。現在はスペイン語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語、中国語、アラビア語、そして日本語の言語、文学、そして文化のコースを設けている。

日本語科では毎年80名前後の学生が日本語を勉強している。専任教官は日本文学の教授が¹1名、常勤講師 (Full-time instructor) が²2名、そして助講師 (Tutor) が³1名の計4名が日本語の授業及び日本語関連の諸行事、事務を担当している。本来は日本文学の教授が日本語プログラムのコーディネータであるが、1998年度から2000年度までは不在であったため、もう一人常勤講師がチームに入り、常勤講師がコーディネータ業務も分担した。^{注2}

80名の学生の内訳は、日本語学習の1年目が³例年約40名前後、2年目が³15名前後、3年目が³10名、4年目が³10名弱、5年目以降が³、3～5人というのが一般的な内訳である。学生の専攻で最も多いのは、東アジア研究 (East Asian Studies)、国際関係学東アジア集中 (International Relations Concentration on East Asia)、経済学などである。日本語が一般教養の外国語となるため、日本語学習の1年、2年目は理系学生が文系学生と一緒に登録するなど、専攻が多様化する。3年目、4年目の単位は専攻によっては必修単位となるためアジア関係専攻の学生の比率が高くなる。副専攻に日本学もあるので、そのような学生も当然入っている。年によっては専攻に関係ないが面白いので取りたいという学生も少数ではあるがいる。5年目以降は自主研究 (Independent Study) というコースを設け、学生個人のニーズに合わせていく。

日本語を3年以上学習した学生の進路は文部科学省のジェットプログラム (JET Program) で来日する学生や大学院に進む学生もいるが、アメリカの一般企業に就職する学生も多い。

II. 授 業

1. 授業スケジュールと教授法、教科書

日本語の授業は一般のコースと同じスケジュールで行なわれる。各年度は主に2学期で構成され、8月末から12月中旬までが秋学期、1月末から5月中旬までが春学期であ

る。秋学期は8月の第4水曜日から始まり、11月末頃授業が終わり、12月のはじめ約2週間が期末試験期間となる。春学期は1月の第3水曜日から始まり、4月末頃授業が終わり、5月のはじめ約2週間が期末試験期間となる。それぞれの学期は15週ずつである。

1週間の授業スケジュールは1年目から3年目までは毎日1コマ(50分)ある。月曜日、水曜日、金曜日は講義(Lecture)と呼ばれ、常勤講師が新しい文型や表現などを導入し、練習も行なう。火曜日と木曜日は練習(Drill)と呼ばれ、前日に学習した新しい文型、表現を定着させるための時間となり、助講師、または常勤講師が担当する。4年目になると週2回、1コマ80分で、常勤講師が担当する。講師陣が少人数であることもあり、学生は1学期を通じて1名、または2名の教師に日本語を教わることとなる。

教授法はコミュニケーションアプローチを使い、4技能の獲得が目標となっている。2年目までで初級の基礎文法が終わり、3年、4年目が中級のレベルである。漢字は1年目で約100字、2年目で約300字を学習し、3年目から復習を兼ねながら1000字を目指す。しかし、西海岸とは異なり、漢字などアルファベットとは異なる文字を見ることに慣れていない学生が多いため漢字の学習は日本語を学習していく中で大きい障害と感じている学生は少なくない。

教科書は、下記表1の通り、1年目は「なかま第1巻」、2年目は「なかま第2巻」、3年目は「中級の日本語」、そして4年目はその担当教師の裁量によって選ばれ、学生の専攻や興味によって扱う教材に柔軟性を与えている。また、5年目は自主研究(Independent Study)になり、1名～3名までで研究したいテーマに基づいて週1～2回の頻度で教師と会って勉強する。

表1 使用教科書・教材一覧

	教科書名	著者・編者	出版社
1年	「なかま 第1巻」	牧野 成一他	Houghton & Mifflin Company
2年	「なかま 第2巻」	畑佐由紀子他	Houghton & Mifflin Company
3年	「中級の日本語」 「わくわく文法リスニング99」	三浦 昭他 小林 典子他	ジャパンタイムス 凡人社
4年	新聞, 小説, 等 (主教科書なし。)		
5年以降	小説, 翻訳教材, 学生の専攻に 関連する教材, 等		

2. 日本語授業の実際

詳しい授業内容は次の通りである。^{注3}

(1) 1・2年生

1・2年生では「なかま」の教科書2巻を通じて基礎文法を導入し、定着を図っている。「なかま」の設定はアメリカ人学生が日本に留学したという設定になっており、日本での生活に必要とされるいわゆるサバイバルジャパニーズから始まる機能面を重視しながら、文法が教えられるようになっている。毎日授業があると言っても4技能の習得を同時に図っていくのは大学の一般教養の中の一外国語の位置付けからはなかなか難しいため、週3回ある講義の時間にはほぼ毎回、小テスト、もしくは宿題の締切日がある。宿題は教科書についてくるワークブックをするのであるが、このワークブックには文法の復習問題とテープを聞いて書きこむという問題があり、非常に盛りだくさんな内容となっている。このため、授業中はひらがなとカタカナが定着すれば、「話す」「聞く」に重点を置き、「書く」そして「聞く」は宿題を通して学ばせている。また、第1巻の3課から読解教材も入っているため、それは授業の中で行っている。

教科書の各課には漢字導入部分もあるので、それに沿って授業の中で漢字を導入、練習している。そのため、漢字だけの授業というものはない。

定期テストは1年生では2課に1回、2年生では各課に1回行う。また、口頭試験も各学期に中間、期末と1度ずつ行う。口頭試験の時は、簡単な質問と動詞などの形を瞬時に代える問題、そしてパートナーとロールプレイをしてもらう。教師が二人いる場合は、学生が退室後すぐに採点し、教師が1人の場合はテープに録音し採点した。

教科書から離れた活動としては、作文とスキット（寸劇）がある。作文は原稿用紙を使って書くという練習を1年生の1学期目から始める。この場合は1回目に学生が書いて提出すると、教師は記号を使って間違っている所、不自然な箇所を指摘するだけで学生に返却し、学生はその記号を見てもう一度自分で訂正し2回目の提出を行なう。そして教師側はその2回目の原稿を徹底的に直す。そして、その作文の口頭発表を授業内で行ないビデオ撮りをして成績をつけている。1年目の1学期目などでは、部屋の中に何があるかななどの内容の作文であるため、そういう場合は学生は絵などを用意し、それを他の学生に見せながら説明する。1年目はこのような視覚補助（Visual Aid）を使用しながらの発表が多い。このような場合は原稿を見ずに自分の視覚補助だけを見ながら説明し、原稿を読まない学生も多い。

話す力を伸ばすことを目的とした活動としてスキット（寸劇）も取り入れている。これは2～3人のグループを作り、学習した文法を使いながらストーリー性のある劇

を作り、演じるというものだ。スキットをする前にグループ分け、台本作りをさせて提出させる。教師はその内容や日本語のチェックをして返却し、学生はそれを練習して当日他のクラスメートの前で演じる。ほとんどの場合、そのためにいろいろな状況設定のための小物や絵や服なども各グループが用意してきてその場に臨む。全てのグループの発表が終わればクラスの中でどのグループ、または学生の演技が良かったか投票をしたり、わかりやすかったかなどをフィードバックとして返す。また、成績はビデオ撮りしたのを見て後日教師が返す。最近は教室の中では本当の場面設定ができないということで、ビデオドラマを作ってきて授業で上映するということがあった。この活動では各学生の個性が普段の授業内よりもよく現われるため、学生の新しい一面が発見できたりしてとても楽しい活動となっている。

(2) 3年生

3年生のシラバスはまず「読む」「書く」の活動と「話す」「聞く」の活動のバランスが大体同じになるように考えた。(シラバスを参照されたい。)これは、一般的な傾向として「読む」「書く」が得意な学生は他の二つの技能が落ち、「話す」「聞く」が得意な学生はその逆であることが多いと考えたからである。また、授業内の発言が多く、十分にクラスに貢献している学生の場合は上述の後者の場合が多く、実際には筆記試験などで成績が悪く、結果的に授業内の発言などの彼らの得意分野を評価の対象にできる仕組みを作らなければがんばっても結局は授業で静かにしている学生の方が成績が良いということになる。このような問題を考慮しシラバスの成績のバランスを考えたわけである。

3年生の教科書には各課にモデル会話が三つ載っているもので、授業では二つだけを取り上げた。そして各課にあるモデル会話と類似した場面設定のロールプレイを行なう助けとして会話の流れを示すプリントを使って練習をした後、ロールプレイの練習をした。また、課によっては総合練習まで発展させられるものもあり、その場合は部分的に練習した後、総合的な練習を行なった。例えばアルバイト探しがテーマの課ではアルバイトを募集している会社に電話をかける場面から、面接にこぎつけて自己紹介をした後、自分のできることを売り込み、採否の通知を受ける場面までを少しずつロールプレイなどで練習し、日本の履歴書も書き、全ての場面を一気にやり遂げられるまで練習した。聞き取り練習は教科書のものだけでは不十分なため補足教材を課し、提出させた。生のビデオ教材も授業の中で取り入れた。また、読解教材は精読分と速読があったが、主に精読分を授業で読んだ。文法は上記のような活動の間に導入し、宿題に教科書内の文法練習を課し、提出させた。2課に1回筆記試験と口頭試験を行なった。筆記試験は教科書の内容に基づいたもので、口頭試験は授業の中で練習した

ロールプレイを行ない、それをテープに録音して成績をつけた。

また、教科書外の活動として、書く力をつけるために1学期目はジャーナル（週間日誌）を日本語で書いてもらい、毎週提出させた。これはどんなことでも書いてもらい、「書く」ということが苦にならないようにしたいと思い行なった。教師側からも間違いの訂正だけでなく、できるだけその内容にコメント、質問などを長々と書くようにして返却した。1学期目のジャーナルは必ず1頁以上書く、また新出の文法を必ず使うということで課題を出したが、2学期目は長めの作文を構成を考えながら書くという方向に発展させ、同じ作文を2度ずつ書いて自分で間違いが訂正できるようになることを目指した。

「話す力」特に、段落レベルで話せる力を養成するために「お茶の時間」と呼ぶ口頭発表を行なった。この発表は各学生が1学期に2度の発表を毎週木曜日の授業内ですというもので、必ず発表前に教師にその原稿を見せ、訂正を行なったり、口頭で練習をしたりした後発表するというものである。トピックは何でも良いということで、2学期間に渡るこの活動は毎回全て異なる内容で各学生の個性や興味が明確になり教師だけでなく、同じクラスメートも興味深く思ったようだった。その一部の例と内容を以下の表にまとめた。

表2 口頭発表「お茶の時間」の例

発 表 例	内 容
日本の運動会紹介	ジェットプログラムで日本の高校にいた学生が日本の運動会を紹介した。
テキサス州の朝食紹介	テキサス州出身の学生が日本、アメリカ、テキサス州の3種の朝食を紹介し、実物を試食させた。
映画比較 「七人の侍」と「荒野の7人」	黒澤明の「七人の侍」とそのリメイクであるハリウッド映画「荒野の7人」の共通点と相違点を実際に映画を見ながら比較した。
小説 「将軍」と日本史比較	日本でも放映されたドラマ「将軍」の原作小説の登場人物と物語を日本の歴史上の人物、史実と比較した。
韓国の歴史と現代文化	韓国の歴史と伝統的だった文化がどのように変わったかを特に若者文化に焦点をあて、ビデオなどを視聴しながら紹介した。
日本語キャンパスツアー	ウィリアムアンドメアリー大学は観光地としても人気が高く、学生によるキャンパスツアーが常時行なわれているが、その内容を日本語にして日本語のクラスの学生を対象にツアーを行なった。
ベーグルの歴史	現在アメリカの食卓に欠かせなくなったベーグルの歴史についてインターネットで調べてまとめた。

この他にもクラブ活動の紹介や旅行に行ったところの紹介、自分が読んだ本の紹介として「ビルマの豎琴」の紹介などもあった。

学期の終わりには読解教材として2～3種類の日本料理の作り方を読み、それに基づいた教室内活動を行なった後、日本語ハウスと呼ばれる寮で実際にその料理をグループに分かれて作り、昼食会にした。

(3) 4年生

4年生の授業は毎年学生の人数が5～10人の範囲で変動することと、その学生たちの専攻、興味も変動すること、また、日本への留学から帰国した者もいれば、ウィリアム・アンド・メアリー大学での日本語が4年目という者もいるため、年によって取り上げる教材を学生に合わせる必要性があった。1997年度までは読解教材と文法の練習問題などを中心に授業が行なわれた。その後はビデオ教材なども入れて生教材を使う比率を上げていき、1999年度の春学期には新聞なども多く取り入れた。ここでは、1999年度の春学期の内容を紹介する。

4年生の日本語の授業は3年まで毎日あった授業が週2回の頻度に減るため、予習となる宿題を課して授業ではその予習に基づいて話し合いができるように導いた。このレベルでの学生の日本語力のばらつきは非常に激しい。日本に1年留学して帰った学生とずっとアメリカにいる学生とでは日本語に接した時間が全く異なるからである。

その両者を抱えるだけのコースということで、コース前半部の週1回はテレビドラマのビデオによる聴解力を伸ばす活動を、もう1回は新聞の読解を行った。新聞の内容は現在の日本社会を投影するものを選び、その中から討論のテーマを選んで準備、練習段階を経て討論を行った。この時の討論のテーマは茶髪を学校教育の中で許すべきか否かということで激論を戦わせた。また、ドラマや新聞に関しては必ず要約と感想を書いてまとめてもらい、宿題として提出させた。

学期の後半は、多くの学生が苦手で、しかし使えるようになりたいと希望した敬語を練習し、その後、2人1グループでそれまで読んだ新聞のテーマに関連した興味のある分野を考え、それをウィリアム・アンド・メアリー大学で研究中の日本人の教授やその夫人、またウィリアムズバーグ在住の日本人に質問をするというインタビュープロジェクトを行った。一応、それぞれのインタビューテーマについて答えることができる社会人の方々を対象とし、インタビューの内容が表面的なものにとどまらず専門的または現実的な質問になるよう準備させた。また、敬語を使わなければならない場面であるということも十分に理解させ、事前練習も行った。インタビューは教室内で行い、聞き取りに自信のないグループはテープに録音することを許可した。そして、

インタビューの次の時間にその報告を発表させたが、その時にインタビューされた方々もお招きした。こうすることにより、一層このプロジェクトの緊張感が増し、敬語も使いながら、かつ聞いた内容をできるだけ正確に報告し感想を述べるという発表となった。

インタビューの後には、文学に興味のある学生を考慮し、エッセイのような読み物と短歌を組み合わせた読解教材を準備した。この中で短歌がどのように詠まれているかをエッセイの内容読解から知り、実際に短歌を詠んで発表をした。この後、長めの読解教材をと考え、ノンフィクションとフィクションの読み物をそれぞれ読み、コースを終えた。しかし、最後の教材は生教材ではなく、日本語学習者用教材を利用した。

また、1学期に1回の頻度で「お茶の時間」の口頭発表を3年生と同じ要領で行ってもらった。^{注4} 話す時間は3年生のレベルよりも長く20分を目安にしたが、たいていはそれよりも長くなった。この時も、韓国語紹介、ビルマ語紹介、日本の紅花染めの工程とその歴史紹介などユニークなものが多かったが、一番興味深かったのは、戦後すぐに日本に進駐軍の一員として来日した学生が行った、その当時の日本の子供たちが物不足の中で遊んでいたゲームの紹介であった。その学生は当時の状況を出来る限り再現するために、当時の写真やゲームに使う道具を作って持って来た。そして発表の後、クラスにいる学生が実際にゲームをやってみた。

学期を通して読解教材の中の新出語彙や漢字の小テストを行ない、中間テストは筆記試験を、期末はテストにせず、新聞記事などを読んで調べたことの要約と感想をまとめてレポートにし提出させた。

(4) 自主研究 (Independent Study)

日本語の4年生が終わった学生は、自主研究というコースを登録し、各自が日本語を使いながら集中的に勉強したいこと、または、日本語の特別に伸ばしたい技能などに集中する。これは週に1回から2回という頻度で教師と1対1または、2～3人の学生のグループで集まり学習する。内容は学生によって異なり、日本のある小説を集中的に読みたい、ビジネスに活かせる日本語、翻訳、短歌など様々である。1997年度に筆者が担当した学生は文化人類学の卒業論文を書くために、長崎県の島部に残るかくれキリシタンの現在の宗教的儀式や慣習をまとめた専門書を日本語で読む作業を行なった。

III. 課外活動

授業以外の活動としては以下のものがある。

1. 日本語ハウス

日本語ハウスとは、学生寮の1フロアに日本語を学習している学生と日本人学生を集め、その空間のコミュニケーションは日本語で行なうという目的で作られた住居空間である。また、日本語学習者がそこで催される文化的活動などを通じて日本文化に親しむという役割も担っている。アメリカの大学は規模は様々であるが、このような形で目標言語の学習できる空間を大学が提供しているところが少なくない。ウィリアム・アンド・メアリー大学では、日本語以外の言語のハウスがあり、このような外国語ハウスに住む母語言語者も雇用している。日本語ハウスも同様に助講師 (Tutor) を雇用し、この助講師は日本語初級の練習 (Drill) の授業を週に10時間教えながら文字通り24時間体制で日本語、日本文化を紹介するために学生と共同生活を行っている。

この助講師を中心として、日本語ハウスでは会話テーブル (Language Table) とムービーナイト (Movie Night) と呼ばれる日本語や日本文化を紹介する活動をほぼ毎週行なっている。1999年度の実績は次の通りである。

表3 日本語ハウスの活動実績一覧

	会話テーブル	ムービーナイト (Movie Night)
9月8日	カレーライス試食会1	テレビ番組「マジカル頭脳パワー」1
9月22日	抹茶アイス試食会	映画「タンポポ」
9月29日	豚汁試食会1	学生自作日本語スキットビデオ
10月6日	折り紙1	なし
10月13日	やきそば試食会	テレビ番組「日本で生活している外国人」1
10月20日	書道1	なし
10月27日	せんべい試食会	映画「乱歩」
11月10日	おにぎり作り1	テレビ番組「幸せ家族計画」1
11月17日	なし	映画「戦場のメリークリスマス」
12月1日	すき焼き試食会	なし
2月2日	節分	テレビ番組「幸せ家族計画」2
2月9日	おもち試食会	テレビ番組「炎のチャレンジャー」1
2月16日	豚汁とおにぎり作り2	テレビ番組「炎のチャレンジャー」2
2月23日	なし	テレビ番組「炎のチャレンジャー」3 「テレビチャンピオン」
3月1日	日本のお菓子	映画「エンジェルダスト」
3月15日	折り紙2	なし

3月22日	書道2	なし
3月30日	日本食レストランで食事	なし
4月5日	お好み焼きの試食会	なし
4月12日	焼肉試食会	テレビ番組「マジカル頭脳パワー」2
4月19日	日本語クイズ大会	なし
4月26日	カレーライス試食会2 日本語クイズ大会	テレビ番組「日本で生活している外国人」1

会話テーブルでは日本の料理紹介が多いが、これはこのような活動が学生を集めるのに大変有効であるということが毎年の傾向からわかっていること、活動計画を立てる際に学生からの希望調査を行なった上で、学生の代表者と助講師と担当講師がミーティングを開いたが、その際の希望を反映したものである。試食会の準備は約20人分の料理を作るため、場合によっては講師が助っ人として手伝う。

また、12月1日のすき焼き試食会は地元にある日米協会バージニア半島支部の協力により、開催された。これはすき焼きの材料となるものを全て協会の日本人女性の方々が即料理できる状態で持ちこみ、料理をするというもので、約50人近い参加者であった。このように日米協会とのつながりから、例年2回隣接の町で開かれるお茶会にも学生は参加している。

また、2月28日には京都の佛教大学から20人前後の英語研修中の日本人学生がキャンパスを訪問したため、日本語ハウスの学生との合同夕食会が開かれ、同年代日本人との会話ができる機会となった。

2. 学内・学外スピーチコンテスト

ウィリアム・アンド・メアリー大学の日本語の学生は、10年ほど前から学外のスピーチコンテストに出場し、優秀な成績を収めてきた。その伝統を踏襲すべく、現在の講師陣もスピーチコンテストへの出場を奨励してきた。以前は日本大使館のスピーチコンテストを始めとして様々な日本関係の組織がスピーチコンテストを開催していたが、日本経済の悪化とともにアメリカに進出している日本企業からの経済的支援も滞り始め、スピーチコンテストの開催数が減少してきた。このような背景からウィリアム・アンド・メアリー大学では、学内のスピーチコンテストの開催を1997年度からスタートさせた。これは4つのレベルを設けて話す力を競い、日本語科外からの審査員によって公平に出場者の日本語力を評価してもらうよい機会となっている。

この学内大会の上位入賞者は、学外スピーチコンテストとしては歴史の長いノース

カロライナ州のデューク大学のスピーチコンテストに進む。学内のスピーチコンテストでは、講師陣はあまり指導を行わず公正を期すために学生個人の努力に期待しているが、デューク大学のコンテストは、ノースカロライナ州近辺の地域で一番大きい大会であるため、出場者が決まると学生は講師と1対1で毎日のように練習に励む。リハーサルとしてビデオ撮りも2回行ない、審査員及び観客からどのように見えるかも研究し、最大限の発表に持っていくようにする。当日は車1台もしくは2台で講師全員と学生全員が会場に向かい参加する。この活動は講師側にも学生側にもかなりの負荷がかかるのであるが、作文指導から発音指導まで授業内でできないことが細部にわたりでき、終わった後の達成感も大きいため、実施する価値があると考えている。

3. 各種日本関連行事

上記で挙げた日本語関係の行事の他に日本学関係の行事もある。日本大使館広報担当参事官の児玉和夫氏、日本文学者のバージニア大学ミチコ・ウィルソン教授、経済学者の慶応大学竹中平蔵教授、社会学者の東京工業大学橋爪大三郎教授などの著名人による英語の講演が行なわれた。

また、1999年度の新しい試みとしてアジアフィルムフェスティバルを開催した。このフェスティバルでは4本のアジアの映画を鑑賞し、日本映画学者のアイオワ大学吉本光宏助教授による講演が行なわれた。

4. 留学制度とインターンシップ

留学制度は金沢大学を協定校とし、毎年1～3名の学生を選考し、送り出すようにしている。大学として正式な留学生制度はこれまで金沢大学とだけであったが、2000年度から慶応大学湘南藤沢校との交換留学も始まった。また、正式な大学間の協定に頼らず個人で留学する学生もいる。これまでの実績からは、南山大学、関西外国語大学が多い。また、夏休みを利用して北海道国際交流センターや国際基督教大学の集中日本語講座に出席する学生もいる。

インターンシップは、夏休みなどの長期休暇の間、一般企業などで働いて実務経験を得るものとしてアメリカの大学生の中では人気が高いが、現在ウィリアム・アンド・メアリー大学からは毎年1名をキャノン(株)にインターンとして送っている。経済が好調だった時期にはこのような国際貢献に積極的であった日本企業であるが、現在は積極的に呼び掛けを行っても海外からのビザ取得の煩雑さなども加担してなかなか引き受けてくれる企業を探すのが難しい状況となっている。

IV. まとめと今後の課題

以上大まかな記述ではあったが、ウィリアム・アンド・メアリー大学の日本語教育事情を述べた。アメリカ東海岸という日本からは遠隔な立地条件の中でどのように日本語と日本文化を理解してもらえるのか、そういう疑問を毎日の授業や関連行事の中で問い続けているからこそ、このような盛りだくさんな企画・運営となり、そのほとんどを4名という少人数で切り盛りしてきた。しかし、ウィリアム・アンド・メアリー大学で行われていることが他の大学と比べてずば抜けて素晴らしいというわけでは決してなく、平均的なアメリカの大学の日本語教育事情だと考えている。

今後のウィリアム・アンド・メアリー大学の日本語プログラムとしての課題は、より安定したプログラムの構築の一言に尽きる。というのも、上記内容の時期は初級レベルの教科書を替えたため、それぞれの日本語コースでは過渡期の混乱も生じていたからである。また、その間コーディネータの日本文学の教授職が空き続けていたということも、大きな問題であった。

今回、筆者が日本の大学で日本語を教えるという機会を得て日本語教育に関して多くの新しい視点を得た。特にウィリアム・アンド・メアリー大学で日本語を学習した学生たちがどのように日本の大学生活を始め、授業に取り組んでいるかということを目の当たりにできたことは何ものにも代えがたい経験であった。アメリカの大学でも外国人の学生がいるが、日本ではより多くの国から、特にアジアからの留学生が多くそのような学生たちとアメリカからの学生が同じ教室で学び、競争していかなければならないという現実もわかった。さらに、日本語だけでなく日本文化紹介や生活面での支援も手厚く行なわれていることもわかった。これらの新たに得た知識・経験は、日本留学を希望している学生をどのようにアメリカで育て送り出し、また迎え入れればいいのかということ、特に日本語のレベル設定をどのようにしていくかということを考える時の大きな参考となった。

教授法については、アメリカの大学ではなかなか中級以上のレベルにまで学生を伸ばすのが難しい上にそこからどのように上級に橋渡しをするかということに関しても学ぶ機会が少なかった。その点は、金沢大学のような大きなプログラムで様々なヒントを得たと考えている。特に読解教材や語句・表現の選び方、取り上げ方、指導方法はアメリカでの日本語教育関係者が学ぶべき点は多いと言える。

今後は金沢大学と海外協定校の日本語教育の情報交換が活発になり、二つの大学を行き来する学生のスムーズな受入れ、送り出しを目指して、電子メール等を利用した教える側同士の直接対話の道も開ければ一人一人の留学生を立体的に捉えられる助け

となり、それが個々の学生が持つ日本語習得過程のどの段階か、もしくは日本文化理解の道しるべをたてる重要な足掛かりになるかもしれない。この報告がそのような情報交換の第一歩となればと強く願っている。今後も今回の筆者が得た機会のような一歩進んだ協定校との関係が進められることを期待してやまない。

注)

注1 今回この報告で報告される内容は1997年度から1999年度のものである。また、筆者が担当した日本語コースとその年度は次の通りである。

日本語コース	担当年度
1年：初級レベル	1997年度，1998年度
2年：初級レベル	1999年度
3年：中級レベル	1999年度
4年：中級レベル	1997年度，1998年度
5年以上 自主研究 (Independent study)	1997年度

注2 また、ビザ、立地等の問題で非常勤講師は一切雇うことができず、どうしても人数的に無理がある場合は日本人の学部生をアルバイト教員として雇わざるを得なかった。

注3 教科書が同じであっても、その年に担当する教師の考え方や個性もあり、いつも内容が全く同じというわけではない。それで、ここからは特に筆者が担当した時の内容を中心に報告したい。

注4 1998年度春学期の学生たちは、3年生時には「お茶の時間」発表は行っていない。

The College of William and Mary
Department of Modern Languages and Literatures
JAPN 302 : Advanced Japanese | 2000 Course Syllabus

I . Prerequisite

JAPN 101, 102, 201, 202, and 301 or equivalent with the instructor's permission

II . Course Schedule

Lecture MWF	1 . 1 : 00 – 1 : 50	EWLL 260
	2 . 2 : 00 – 2 : 50	WASH 308
Discussion TR	1 . 8 : 30 – 9 : 20	WASH 304
	2 . 11 : 00 – 11 : 50	AND 207

III . Instructor

Kyoko Kobayashi Office : WASH 227

E-mail: kxkoba@facstaff.wm.edu

kokokoba@widomaker.com kyokokoba@widomaker.com(for JPN/ENG)

Office Hours : MW 3 : 00 – 4 : 00

TR 9 : 30 – 10 : 30 or by appointment

IV . Textbooks

- <Required> The Japan Times
 An Integrated Approach to Intermediate Japanese (中級の日本語)
 by Miura and McGloin Course Packet
- <Recommended> Tuttle *Kanji and Kana* by Hadamitzky and Spahn
 The Japan Times *A Dictionary of Intermediate Japanese Grammar*
 by Makino, Tsutsui Kodansha International *Furigana Japanese-*
 English Dictionary and *Furigana English-Japanese Dictionary*

- V . Objectives :** As a continuation of JAPN 301, you will be able to approach a more natural usage of Japanese language expressions based on your previous knowledge of the Japanese language acquired in JAPN 100 and 200. Also, you will continue to expand and enhance your knowledge of vocabulary and kanji in this course to create a bridge

to JAPN 400 for you. The goals regarding the skills of speaking, listening, reading, and writing will be as follows :

Speaking : You should be able to use proper grammar structures and expressions including various speech styles reflecting the situation. Also, you should be able to describe situations and tell short stories while linking sentences together smoothly into paragraphs.

Listening : You should be able to understand expressions of others, including native speakers, in various situations. Also, you should become comfortable with the natural conversational speed of native speakers.

Reading : You should be able to understand the overall content of the modified reading material in the textbook with the help of vocabulary and kanji lists. Also, you should be able to skim and scan the content of readings for meaning when necessary. In addition, you should be able to read more kanji.

Writing : You should be able to describe your own situations and express your own opinions using connective words and subordinated clauses. Also, you should be able to write more kanji.

VI. Grading

1) Attendance+Participation	15%	A (93-100)	C (73-76)
2) Quizzes	10	A- (90-92)	C- (70-72)
3) Lesson tests	15	B+ (87-89)	D+ (68-69)
4) Homework assignments		B (83-86)	D (66-67)
作文・文法練習	15	B- (80-82)	D- (65)
聞き取り	5	C+ (77-79)	F (0-64)
5) Presentation (お茶の時間)	10		
6) Oral interviews	10		
7) Final oral interview	5		
8) Final exam	15		
Total	100		

VII. Remarks

1) Class attendance and Participation :

You are required to attend each class on time. It will be best to talk to the instructor about

any unavoidable absence in advance. If possible, please submit an official note to justify the necessity of the absence.

Two late arrivals (10 minutes or later) will count as an absence. You will receive an automatic F if you are absent from class 10 or more times without official notes.

In cases of emergency such as illness, leave a clear message and your name on the instructor's voice mail (221-1472) or send one by e-mail (kxkoba@facstaff.wm.edu kxkoba@facstaff.wm.edu) and submit a doctor's note later if possible.

Those who fail to follow the above procedures regarding absences will not be able to make up quizzes or tests.

To improve your speaking and listening skills as a student in the advanced course, it is very important for you to participate actively in classroom and other extra-curricular activities. Demonstration of an active attitude toward Japanese language learning outside of the classroom such as in Japanese House activities will be included in your grade.

2) Quizzes :

There will be quizzes on vocabulary and kanji throughout the semester.

3) Lesson tests :

There will be two lesson tests covering two lessons each throughout the semester.

4) Homework assignments : There will be three kinds of homework assignments in this course.

◎作文ノート

You are required to write 作文 on two topics in this course. You will revise one 作文 twice. Although you can write whatever you would like, there will be some rules :

1. Create your sentences using the latest grammar structures, vocabulary and expressions that you have learned in this course as well as in the previous courses such as JAPN 301.
2. Use as many kanji that you have already learned as possible.
3. Try to link sentences using connective words and subordinated clauses.
4. Organize 作文 with a logical cohesion, and be consistent in using the written style.

The purpose of this assignment is to increase kanji and vocabulary that you are likely to need to express yourselves and to encourage you to write something meaningful with a logical organization in Japanese. The grade of the 作文 is based on grammar, vocabulary, expressions, kanji, complexity of the sentences, accuracy, content and

organization.

◎文法練習

You are required to submit a sheet containing the answers of 文法練習 in each lesson.

◎聞き取り練習

You are required to submit the 聞き取りの宿題 worksheets in the course packet for each lesson.

You are required to submit homework by the specified due date. Late submissions will decrease the percentage of the full score given as follows :

2 days late	90%
4 days late	80%
1 week	70%
2 weeks or more late	50%

5) Presentation(お茶の時間)

There will be a presentation called 「お茶の時間」 by each student during the semester. This presentation will be held at the beginning of classes on Thursdays throughout the semester. Each student will present whatever s/he would like for about 10 minutes. You can explain something about a field interesting to you, show something such as pictures and videos, or play a game. The rules are that you must speak only in Japanese and encourage other students' participation. You are required to meet with the instructor to practice with her by the Monday before the Thursday presentation. The grade of the presentation is based on oral proficiency. The criteria will be pronunciation, fluency, clearness of the explanation, the use of vocabulary and sentence structure, and originality and attractiveness to the audience.

6) Oral Interviews :

There will be three oral interviews including the final oral interview throughout the semester. Your performance will be graded based on accuracy of the target expressions, vocabulary, and sentence structures, pronunciation, fluency, and amount of speaking.

7) Final exam :

The final exam will consist of 3 parts : kanji, grammar, and an oral interview. The final exam is scheduled for Tuesday, May 2, at 1 : 30. You must take the exam on this date according to the requirements of the college.

Course Schedule(Subject to change)

JAPN 302 : 2000

Week	M	T	W	R	F
1 (1/19-21)			Syllabus	Review	L. 6
2 (1/24-28)	L. 6	L. 6	L. 6	L. 6	L. 6
3 (1/31-2/4)	L. 6	L. 6	L. 6	OI 1	L. 6
4 (2/7-11)	L. 7	L. 7	L. 7	L. 7	L. 7
5 (2/14-18)	L. 7	L. 7	L. 7	L. 7	L. 7
6 (2/21-25)	L. 6+7 Test	L. 7	L. 8	L. 8	L. 8
7 (2/28-3/3)	L. 8	L. 8	L. 8	L. 8	L. 8
8 (3/6-10)	Spring Break	Spring Break	Spring Break	Spring Break	Spring Break
9 (3/13-17)	L. 8	L. 8	L. 8	L. 8	L. 9
10 (3/20-24)	L. 9	OI 2	L. 9	L. 9	L. 9
11 (3/27-31)	L. 9	L. 9	L. 9	L. 9	L. 9
12 (4/3-7)	L. 8+9 Test	L. 9	L. 10	L. 10	L. 10
13 (4/10-14)	L. 10	L. 10	L. 10	L. 10	L. 10
14 (4/17-21)	L. 10	L. 10	L. 10	L. 10	Final Oral
15 (4/24-28)	Video	Video	Review	Review	Review



Class Preparation : 授業の前^{じゆぎょう まえ}に予習^{よしゅう}をしましょう！

1. Culture Notes must be read before the class.
2. Listen to 会 話 (main dialogues) on the tapes at the Language Lab and work on your pronunciation. Remembering the key sentences will help your presentation of the role play.
3. 読み物 (reading material) includes many new words and kanji which are given in the vocabulary list. Before the reading exercise in class, you need to check all unfamiliar readings of kanji and comprehend the content.
4. 漢字リスト (the list of newly introduced kanji) has two sections : 書くのを覚える漢字 (kanji to remember writing) on the top, and 読めればいい漢字 (kanji for reading only). You are required to practice them and to be ready for kanji games and quizzes.
5. 文法ノート (grammar notes) are for assisting you in preparing for class. You are expected to read them before class.
6. 文法練習 (grammar practice) will be assigned as homework while some will be practiced in class.
7. 運用練習 (practice for actual usage) will be used in class for role play activities. You are expected to use as many new vocabulary and grammar structures as possible.
8. 聞き取り練習 (listening practice) will be homework. You need to submit the worksheet provided.
9. 速読 (speed reading) may be covered in class.